木戸川についての質問について

【質問】（７番木戸川についての追加質問）

・費用対効果が、平成 26 年には 3.28 が令和元年に 1.65 と半減しています。

・理由についてお教えください。

【回答】

・前回 H26 の再評価委員会で配布しました資料の位置図（図１参照）と今回の第１回再評価委員会で配布しました資料の位置図を見比べていただくと分かるかと思いますが、

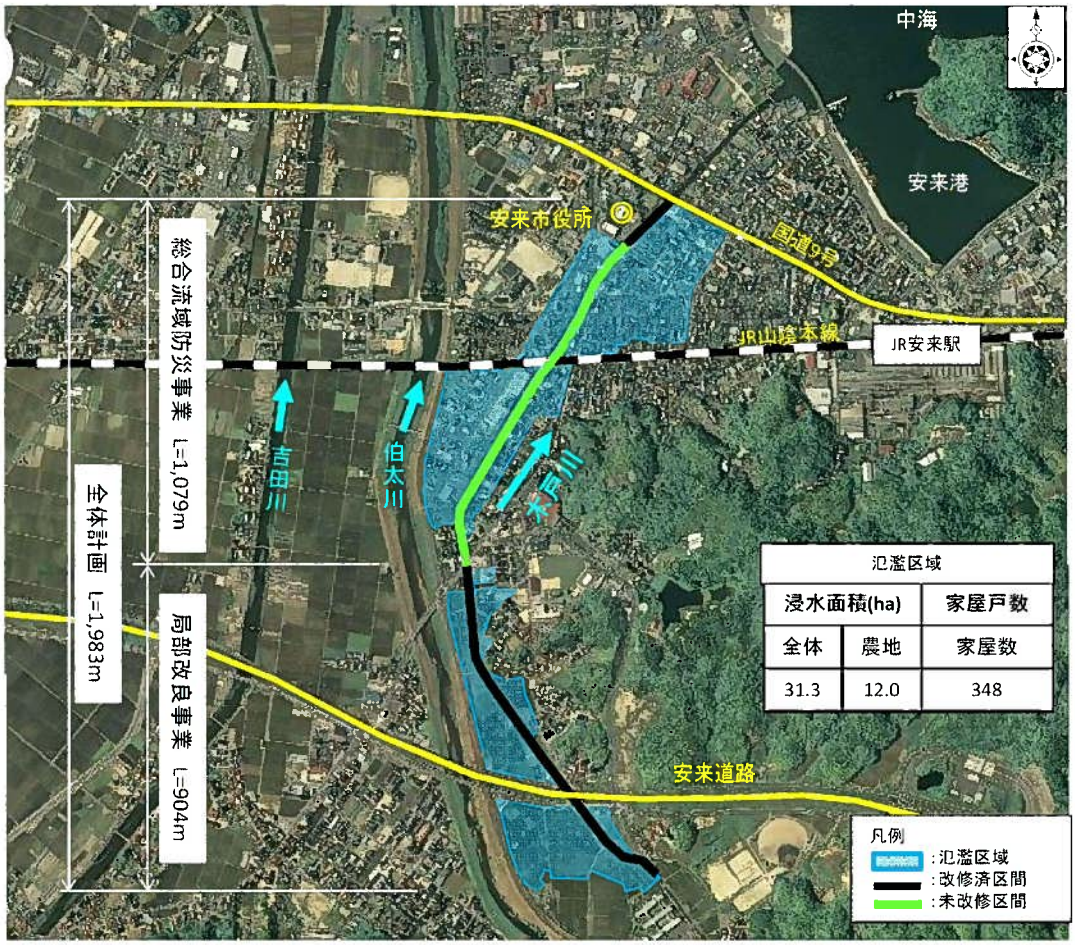

図１．平成２６年度再評価委員会配付資料の位置図（抜粋）

木戸川の費用対効果の算出については、最初の再評価委員会（H11）の当時、局部改良区間が事業中であったことから、この区間を一連区間として含め費用対効果を算出していました。また、以降の再評価委員会（H16、H21、H26）においても、この局部改良区間を含めて費用対効果を算出してきました。

今回の再評価委員会においては、平成１２年度に局部改良事業が完了したこと、及び、現在事業中である総合流域防災事業の進捗が計画延長の半分程度まで進んでいることから、総合流域防災事業の区間だけでも費用対効果を満足しているかを検証するため、局部改良事業完成区間を除外して費用対効果を整理する手法としています。

B（便益）の変動の要因

・上流の局部改良事業区間を除外し、また最新の解析方法を導入したことによって、浸水エリアが大幅に減少し被害額（便益）が下がりました。（115.80 億円→56.84 億円）

C（費用）の変動の要因

・上流の局部改良事業区間の整備に約 10 億円費用がかかっていましたが、これを除外したことで約 10 億円程度費用が下がりました。一方で、最新の必要事業費の精査により、さらに 9 億円近く予算がさらに必要となる見通しとなっています。これにより、トータルでは費用の変動は約 1 億円の減となりました。（35.36 億円→34.46 億円）

B/C（費用対効果）について

・以上の B、C の値の変動により、56.84／34.46=1.65 となります。

・H26 再評価の B/C と今回の再評価の B/C を再掲します。また参考までに、H26 再評価時点において、今回と同様の整理（局部改良区間を除く）をした場合を想定したものの B/C を再算定すると 1.62 となります。

■H26再評価

H26（局部改良区間含む）		
便益 【B】	費用 【C】	費用対効果 【B/C】
115.80	35.36	3.28

■H26再評価時点（参考）

H26（局部改良区間除く）		
便益 【B】	費用 【C】	費用対効果 【B/C】
56.84	35.13	1.62

■R1再評価（今回）

R1（局部改良区間除く）		
便益 【B】	費用 【C】	費用対効果 【B/C】
56.84	34.46	1.65